

校長研修だより180

シリーズ「授業風景8（最終回）」

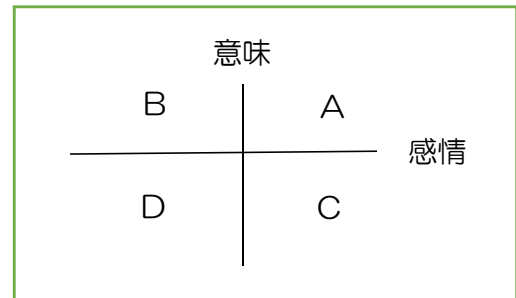
～「人権学習」の実際～

2024・12・18 重枝 一郎

重枝先生の授業のまとめの語りに、生徒は真剣なまなざしで聞き入っています。

ホワイトボードに重枝先生が書きます。
（コミュニケーション座標軸）

「コミュニケーションには、意味を伝えることと感情を伝えることと両方があります。うまく言葉では伝えられないけれど、気持ちはあるんだよという人がいる。しゃれたことは言うんだけど、実は、気持ちは裏腹で、口だけですよという人もいます。これは、両方ダメです」



「Aの場所が、学校でするコミュニケーションです。これだけたくさんの方が集まっているんです。このコミュニケーションがとれるかどうかだぞ」

「意味と感情を統合したコミュニケーションをとるのが、学校なんです。そういう学校だったら、成績も上がる、スポーツも上達する、文化的なことも伸びる。意味をきちんと伝えて、しかも気持ちも伝わるコミュニケーションをとる集団であつたら、必ず成長します」

「では、意味はあるけど、気持ちは伝わらないコミュニケーションって、どう考えたらいいんだろう。座標軸のBのところだな。（生徒）事務的な連絡です。そうだね。仕事を円滑にするために打ち合わせはするが、そこにあまり感情は入っていません。感情が入ると、やる気が出るんだけど。一言、ありがとうなど添えられるとやる気はアップしますよね。それはAのところになる。」

「次のCは、気持ちはおもいっきりあるんです。でも、意味はあんまりないというのはどんな想像をする？（生徒）恋愛トークです。あはは……。確かにそうかも。ねえ、私のどこがスキ？ 彼氏に聞きます。君の全部がスキさって、会話の意味はあんまりないですね。でも、気持ちはすごく交流している。あはは……。悪くはないけどね。意味がきちんと伝えられたら、それはAだな。」

「それでは、Dはどうでしょう？ 意味も否定する、感情も受け入れない。（生徒）戦争をするときの人の気持ち。おーそうか。相手の意味を否定して、気持ちも受け入れない。戦争に入るときってこんな状態ではないかということだね。だとしたら、みなさんの学校やみなさんの教室は、Dの戦争状態じゃダメだよな。この真逆の位置にあるAが、みなさんの学校やみなさんの教室にすることを目指すことになるよな」

「今、みんなは模造紙に、自分の意見、みんなの意見をまとめて、してほしいこと、してほしくないことを書きました。これに意味はあります。こういう言葉がいい、こういう行動はよくない。意味を書きました。それを、みんなから言われたりされたりしたときに、どん

な気持ちになるか。これからは、模造紙に書いた、言ってほしい言葉に気持ちを込めましょう。逆に、言われたくない言葉は言わないようにしましょう」

「これで終わりますが、この授業直後に、いきなり人が嫌がることを言う人はいないよね。でも、もしかしたら教室に戻ったとたん、人の悪口を言う人がいるかもしれません。みんなが絶対してはいけない気持ちになっているのに、すぐする人が……。このチームは崩壊への道をたどっています。たった一言で、その場所の空気が変わります。いい方にも悪い方にも。たった一言で、心があつたかくなります。たった一言で、その人の心に一生の傷をつくることもあります。どうやって、責任をとりますか。友だち同士だけではありません。先生たちも人間です。みんなのたった一言で、一生、傷が残ることがあるんです。誰とでもお互い様です。そのことを心に刻んで、学校生活を送ってほしいと思います」

「今日、リーダーに発表してもらった学級目標、どれも自分たちで決めたことだよ。その目標に込めた意味をもう一度、クラスで話して、気持ちをひとつにして、意味と感情を統合してほしい。最初にみんなが言った『協力』『団結』という言葉、簡単なことではありません。その言葉の重みを実感してくれたなら、まずは、身近なところからです。自分が行動しないと、何も変わらない。誰かが変えてくれるなんて、そんな都合のいいことはないんです。学級目標を実現する主役は、君たち一人一人です。ここにいる全員がそう思って行動したら、心があつたかくなる言葉を、毎日口に出していたら、気付いたら『協力』できる集団になっています。小さな積み重ねからしか、達成できないんです。おはようって、ありがとうって、言葉に出して言おうって、そういうところからですよ。気持ちを込めて、口に出してください。

それでは、終わりのあいさつをします。全体、起立」

「ありがとうございました」

生徒たちの気持ちのこもった、大きくそろった声で、授業が終わりました。

《おわり》



8回シリーズを読んで、何か“たし算”ができましたか。2学期は、たくさんの行事があったり、困難な事案対応もあったでしょう。先生方それぞれに何らかの“たし算”があったのではないかと思います。初めて取り組んだことや、苦手なことなどは、特に大きな“たし算”があったと思います。生徒の立場に立つと、若く経験が少ないから、私たち以上の“たし算”をしていると思います。

本当にありがとうございました。